

いしかわまち 「地域の支え合い通信」

発行：社会福祉法人 石川町社会福祉協議会
石川町字渡里沢37-5
TEL 0247-26-3793
FAX 0247-57-7003
編集：生活支援コーディネーター NO.11 発行日：2023.8.1



誰もが住み慣れた地域で 最期までいきいきと 心豊かに暮らせる社会に向けて



本町でも支え合える地域づくりに向けて各地区で話し合いが始まっています。
誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けられるよう、一緒に助け
合いの地域づくりを考えていきましょう。

支え合える地域づくり。介護保険のサービスが、昔は自然にやっていた隣近所の付き合いが、コロナ禍を経験したことで、現在は少し変わってきているように感じています。一人暮らしや高齢世帯の増加に伴って、高齢になると誰もが経験していく「ちょっとした困りごと」が、日々の悩みごとになっている人が増えてきています。

今年2月に山橋地区、6月に中谷地区で「地域のつながりの大切さについて」さわか福祉財団から講師を招き、地域のみなさんでお話を伺いました。その中には、「してもらいたいこと」や「してあげられること」を「お互いさま」の助け合いとして地域でアンケートを取り、身近な困りごとを「お互いさま」で解決しているというものがありました。

安心して暮らしていくために、ご近所さんなどで「お互いさま」の関係づくりを以前にも増して心掛けていく必要があることを再確認しました。

頼めるご近所さんがいることは、安心して我が家での生活をしていく上でとても重要なこととなります。

第7弾 新しいふれあい社会
これからの「助け合い」を
どう進めるか。

介護保険のサービス

母畑

令和5年度第1回福祉部会を4月26日に開催しました。
主な内容は、令和5年度の役員改選について、令和4年度の活動報告について、令和5年度の活動計画について話し合いました。

主な計画は、
①一人暮らしの高齢者（75歳以上）や気掛かりな人の困りごと調査アンケート
②ちよこつと助け隊（平田村）の設立と現在の状況に関する講話
③支え合い助け合い先進地視察研修
④各種研修会の参加⑤自主防災部会との連携

具体的には、①アンケート調査をして、直ぐに対応できることと関係機関へ繋げることを精査、②ちよこつと助け隊の講話から福祉部会でできることの取り組み励行、③先進地視察研修（見守り活動・支え合い活動に特化した活動）、⑤自主防災部会との連携（平時時と災害時の一人暮らしの高齢者や気掛かりな人の声かけと見守り活動）

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に位置づけられ、3密に気を付けながら、住民一人ひとりが安心して暮らせるよう地域福祉の向上を図るため取り組みたい。

（母畑地区 永沼）

～ボランティア登録者募集しています！～

石川町ボランティアセンターでは、生活支援を含む様々なボランティアを募集しています。
ボランティアに興味のある方は是非「石川町ボランティアセンター」に登録をお願いします。

買い物支援

（買い物代行）

足腰が弱く買い物に行けない方や交通手段がない高齢者等の買い物のお手伝いをしていただく活動です。



ゴミ出し

一人ではゴミ出しできない方の家を訪問し、ごみステーションまで持っていく活動です。

（週1回程度）

災害ボラ

災害発生時および発生後に被災地において復旧活動や復興活動を行うボランティアです。



生活支援

話相手（傾聴）、電球交換などちょっとしたことのお手伝いをしていただく活動です。



雪かきボラ

除雪が困難な高齢者世帯や障がい者世帯への除雪活動になります。高校生が活躍しています。



活動内容や活動日時はご相談に応じます。ご自身の可能な時間・頻度で。地域でお困りな方の生活のお手伝いをしませんか？「ボランティア活動してみたい」、「人の役に立ちたい」、「経験や資格を活かしてみたい」などとお考えの方は是非一度ご相談ください。石川町ボランティアセンターはあなたのボランティア活動を応援します。

問合せ・申込先：石川町社会福祉協議会（石川町ボランティアセンター）TEL：0247-26-3793

「自治センターや集会所が地域のつながる拠点に」 ～福祉部会の活動～

みなさんは、自治センターや集会所をどんなふうに活用していますか？
定期的に出かける場所があることは、参加者同士の「顔の見える関係」ができ、つながりが生まれ良い人間関係が広がっています。
各地区自治協議会・福祉部会の活動をご紹介します。

中谷

5月2日に福祉部会の総会を開き今年度の活動が始まりました。福祉部会が始まって5年目。

これまで地域毎に見守り訪問活動をしてきました。訪問時には喜びの声が多く聞くことが出来ませんでした。「コロナが5月に引き下げられ、コロナにより途絶えていた地域のつながりの再開に向けて考えていかなければいけないと考えています。」

6月29日には、さわやか福祉財団の岡野先生を講師に迎え「支え合いの地域づくり」講演会を開催しました。高齢になると生活の中で困ることが増えてくるので、ご近所とのつながりの大切さを、地域のみなさんで我が事として考える機会ができればと思います。

聴講後は地区毎に分かれ、「高齢者の困りごとについて」と「出された課題の解決に向けて」をグループワークで話し合い、その後の感想の中にも「有意義な会だった、手伝ってもらっただけでなく、自分は何ができるかなどアンケートを

取ることはやる価値がある」「これからの地域の課題がわかり、今後これからの生活に生かせるようにしていきたい」など貴重なご意見をたくさんいただきました。地域の方々と一緒に、「支え合いの地域づくり」を共有できたことはとても良かったです。

(6月に行われた講演会の様子)



グループワークでは多くの意見が出されました。



沢田

5月11日に今年度の第1回健康福祉部会を開催しました。今年度はメンバー全員が入れ替わったこともあり、疑問点など積極的に話し合いがなされ、今まで気づかずに活動していたことや問題点について、少し立ち止まって考える有意義な時間となりました。中でも「地域の支え合い」の必要性や現在の活動を地域全体に「知ってもらうこと」そして「参加を呼び掛け、広げる」ことの大切さを感じる会議でした。

また、6月8日には健康福祉部会主催「地域サロン交流会」が開催され、地域のサロン参加者や長寿会、そのほかボランティアの皆さん56名、15チームが一堂に会しポッチャ競技を楽しみました。今回は2回目ということもあり各チームとも作戦を立てながら熱の入った試合が展開されました。秋にも交流会の開催を予定しています。

そのほかの動きとして、6月には「白鳥の会」の総会を開催し、7月よりミニデイを再開することを決定いたしました。又、旧自治センター跡地に新しいグラウンドが設営され、長寿会の方々が毎週火・金曜日にグラウンドゴルフの練習に励んでいます。地域サロンでは、昨年の「出張カフェ」をきっかけに、

中央区サロンが始まり、沢田の全ての区にサロンができました。4月より、毎月2回、自治センターで楽しく元気に活動をはじめます。

傾聴訪問活動も新たなメンバーを加え進んでいます。このような様々な活動を通して沢田の地域の方々のたくさんの「笑顔」に出会うことができます。

今後より多くの方々や地域同士がつながり、気かけ合おうと。「向こう三軒両隣」「困ったときはお互いさま」の大切さを、地域に広げたいことを検討していきたいと思えます。

(沢田地区 水野)



新しく整備されたグラウンドで、長寿会のメンバーが週2回グラウンドゴルフに励んでいます。

サロン交流会では、様々な団体が集まり交流を深め、笑顔と笑い声に包まれた1日となりました。



山橋

今年2月21日、さわやか福祉財団の岡野先生を講師に迎え「支え合いの地域づくり」講演会を開催しました。最期まで住み慣れた地域で暮らすために、高齢になつてからの不安に対して「介護保険は万能ではない、生活していく上では、足腰が弱ってくるため「買い物が大変になる」「出て行けなくなり誰とも話をしていなくて寂しい、不安」「重い物、高い所など家事が大変」など、誰もが経験するであろう身近な内容でした。

また、高齢者の孤立化の問題・その支援として地域で開催するサロン効果について話していました。聴講後、地区毎に分かれ、「高齢者の困りごとについて」と「出された課題の解決に向けて」話し合いました。課題が解決に向けて動き出せるよう、引き続き福祉部会補助サークル「モチモチの会」持ちつ持たれつ「の会」を立ち上げて取り組んでいくことになりました。「モチモチの会」も4月より活動を開始しています。

3月には、福祉部会で4地区の長寿会会員(145名)に協力をお願いし「生きがいアンケート」の調査を行いました。その中には「コロナ禍で籠っていたので、ストリスを発散できる活動をした」という内容のものもありました。部

会でも、活動の手助けができればと考えています。また同月に、福祉部会員による買い物支援バス試乗体験を行い、乗り心地の良さや便利さを実感し、まだ利用していない高齢者にも推進していくことも話が出ました。

(山橋地区 湯澤)

支え合いの講演会でのグループワークでは、身近な地域の困りごとなど、我が事として考え、意見を出し合いました。



定期的開催されているサロンでは、みなさん休まず元気に参加し、健康づくりに励んでいます。

野木沢

ミニデイふれあいの広場「のぎさわの会」が3年ぶりに6月7日よりスタートしました。会員16名が参加し、内容はイキキ体操と風船リレーを行いました。

7月5日には2回目を開催し会員17名が参加し、楽しくからだを動かそうという内容で行い、みなさん笑顔で楽しんでいる様子を見ることができました。

また、8月8日には地域に生活している人たちが、快適に安心して過ごせる地域生活環境づくりをめざすため、早期発見・早期対処を合言葉に、地域で声掛け・気にかかけ・支え合うことで、問題が悪化、長引かないようにするための予防活動について保健福祉課・包括支援センターより講師を依頼し、野木沢地域福祉ネットワーク会議を開催する予定です。

(野木沢地区 塩田)



(久しぶりのミニデイの様子)